

## (夏休み雑感 ) 8月30日午後8時のテレビに注目

大阪市内の小学生だった頃、関西弁を話せない転校生がやってきたが、そんなことに偏見を持たないほうなので、程なく親しくなった。彼の家に遊びに行くと、お祖父さんが、戦前、衆議院議長をしていた事実が記載されている本を見せられた。しばらくして、総選挙になると伯父さんが立候補していることも聞かされた。

それがきっかけで、開票速報に耳を傾ける(当時はラジオ)ようになったから、もう、60年ほど、国政選挙の結果を注目してきたことになるが、長い間、定員の過半数の候補者を立てるのは一党だけで、たとえ衆議院の総選挙の場合でも、政権の行方は、選挙前から決まってしまうっており、せいぜい各党の議席の多少の伸縮を、マスコミは仕方なくやや誇張気味に伝える時代が続いた。

こんな状況では、選管などに「あなたの一票が国を動かす」などとおだてられても、しらけてしまって、若い世代になれはなるほど、無関心層が増えてきたのは無理からぬことであった。ところが、今度の総選挙は、「政権選択の選挙」と言われている。正に、70歳にして初めて味わうスリリングな状況が現出したとも言える。

こうなると、かつては、芸能人やスポーツ選手などの、交際発覚だ、結婚だ、出産だ、不倫だ、病気だ、離婚だ、スキャンダルだと、赤の他人にとってはどうでもいいようなことを長々と報じて視聴率を取っていた、民放テレビのワイドショー的な番組までが、近年では、政治ネタにもずいぶん時間を割くようになって来た。

もっとも、これには、前回総選挙の際の「郵政民営化」是か非かに争点を絞り込み、「殺されてもいい」とまで言い切った小泉総理(当時)の迫力、そして、日替わりでの「刺客」擁立作戦など、今日「小泉劇場」とまで評されている一連の事柄が大きなきっかけになっているので、今回突然現れた現象とは言えないのだが。

いずれにせよ、文字通り「あなたの一票が国を動かす」時代がやってきたのである。8月30日の午後8時には、国民主権という憲法の大原則が、単なる建前や、絵に描いた餅ではなく、多くの人に実感されることだろう。

最近では、出口調査が普及したために、多くのテレビ局は投票終了と同時に、各党の獲得議席数の推計を発表するので、総選挙の大勢はこの時点でほぼ判明する。

よほどの接戦になっていない限り、選挙後30日以内に開かれる特別国会で、麻生さんか鳩山さんか、いずれが内閣総理大臣に指名されるのかもはっきりする。

だから、その時刻には、私のみならず、多少なりとも政治に関心のある人々はテレビにはりついているにちがいない。